

地域生活交通に係る調査特別委員会 摘 録

1. 開催日 令和6年10月28日(月) 第2委員会室
2. 出席委員 宇江田豊彦委員長 前田智永副委員長 谷口隆明 徳永泰臣 五島誠 國利知史
林高正議長
3. 欠席委員 なし
4. 事務局職員 山根啓荘議会事務局長 横山和昭議会事務局議事調査係長 橋本和憲議会事務局主任主事
5. 説明員 なし
6. 委員外議員 坂本義明副議長
7. 傍聴者 なし
8. 会議に付した事件
 - 1 今後の調査について
 - 2 その他

午前9時00分 開 議

○宇江田豊彦委員長 第5回地域生活交通に係る調査特別委員会を開催いたします。ただいまの出席委員は6名です。それから、第1回から引き続き参加して下さっている委員外議員1名も出席です。全員出席ということで協議に入ります。本日の会議において、傍聴、録音、録画を許可しています。

1 今後の調査について

○宇江田豊彦委員長 それでは、協議事項1点目、今後の調査についてです。我々議員の任期ももう残されたところ5カ月余りとなりました。そして、本特別委員会も、幾ら頑張っても3月までしか活動ができません。そして、3月定例会でまとめをしていくことになると思うので、非常に困難だと思われるので、11月には一定の方向性を見いだして中間報告をすることが望ましいと考えます。そして、本特別委員会で調査を始める段階でそういうスケジュールでスタートしたので、11月中には本特別委員会で一定のまとめができるような取り組みにしていきたいと思っております。本特別委員会のコンセプトは、より利用者、提供者の立場に立って今の地域生活交通について課題認識をしていくことです。前回の特別委員会で皆さんと議論をしたように、体験をしてみるということできょうは御議論をしてもらいたいと思っております。特別委員会の資料をモアノートに掲載しています。その資料を見ながら議論を進めてまいりたいと思っております。もう皆さん見てくださっていますか。この計画だと道の駅たかのを出発して道の駅たかのに帰るルートなのですが、道の駅たかのまで帰らないといけないうことでもあります。三次駅まで行って終わりにしてもいいのですが、その辺は皆さんとの今後の議論だと思っております。それから、道の駅たかのを出て庄原駅、庄原駅から東城駅、東城駅から備後落合駅、備後落合駅から庄原駅、そして、最終のバスで道の駅たかのまで帰るというルートを第2案として提案しています。日常生活の中で、地域生活交通で一番困っている部分の地域福祉バスであるとか、オンデマンド型の交通に重きを置いた形の調査にはならないという側面もありますが、第1案、第2案を通して皆さんの御

意見をお伺いします。坂本副議長。

○坂本義明副議長 第2案の中に東城のお通りバスを少しだけでも入れられないのか。お通りバスが入ればいいのか。庄原にはひまわりバスがあるが、私は東城のお通りバスに乗ることはまずないし、乗られているのかどうか。見ればわかるかもしれないが。

○宇江田豊彦委員長 皆さん、東城のお通りバスに乗られたことがありますか。ないですね。谷口委員だけ乗られています。ほかにありませんか。それから、もう1つの視点とすれば、こういう割とよく使われる路線ではなく、本当の意味で地域生活福祉バスだけに焦点を当てて乗降体験をするのもありかと思えます。その場合はこのメンバー全員で乗ったり降りたりすることができないので各ルートに分かれてするしかないと思えますが、そういう方向性も考えたらどうなのか。それで、そういう体験型の調査をもう一度行うのは期間的になかなか難しいと思えます。どちらかに焦点化して、みんなが同じことを体験できるような調査を、バスを中心にして行う。JRについても、高校生が通学している時間帯でJRを利用してみたいといけないのではないかと思います。朝と夕方、三次から乗って西城まで行き、今度は帰りで西城から三次に向けて乗ってみるという体験も一度はしないといけないのではないかなと思えます。実際にはその程度しかできないと思えます。徳永委員。

○徳永泰臣委員 JRに乗るのが結構多いと思うのでこの案もいいと思えますが、生徒が乗る便があまり含まれていないので、せっかくJRに乗るなら朝夕の生徒が1番乗る時間帯に乗るほうがいいのではないかと思います。どうですか。

○宇江田豊彦委員長 他にありますか。國利委員。

○國利知史委員 JRは、この中にも多分もうほとんど乗らない方がおられると思えます。JRは絡めたほうがいいのか。あと、日程的に難しいとは思いますが、各自でもいいので一度でも「よくなる」に乗ってもらえればと思います。この前乗ったときに議員は乗らないという話もされていたので、こういう庄原で夜の交通の実証実験をされているところに一度は乗ってみたいほうがいいと思えます。

○宇江田豊彦委員長 他にありませんか。JRで高校生が乗る便となると、朝7時前の三次駅発のJRに乗って移動するしかないです。これに乗って最低でも西城紫水高校までは行かないといけないと思えます。西城駅に着くのが7時54分です。これに乗ってみることも入れますか。國利委員。

○國利知史委員 この行程の中でその便に乗ることはできないのですか。例えば、第2案の道の駅たかのから出るのを三次駅に変えて、7時発の便に乗って、庄原駅まで来て、そこから後のルートにするとか、高校生が乗る便を経験していたほうがいいのか。あそこに集合するのなら、あそこにまた戻らないと帰れないですね。

○宇江田豊彦委員長 三次駅スタートで、三次駅に帰ります。五島委員。

○五島誠委員 1人、2人乗るのは別にいいと思えますが、8人で乗って以前の交流会のときのように迷惑をかけるのもどうなのか。と思うのです。

○宇江田豊彦委員長 前田副委員長。

○前田智永副委員長 先ほど御意見があったように、通学時のJRに乗ってみたいほうがいいというもの一応、案に挙げてはいます。ここには載せていないのですけれども。6時54分に三次駅を出発して備後西城駅まで行って、JRでまた庄原駅に戻る便があります。時間をもったいないので、そこからひまわりバスに乗って、今度は庄原からバスで三次に戻る、12時19分着の半日コースも一応考えてはいますが、先ほど言われたように多人数で乗ると邪魔になるのではないかなということも考えて、例え

ば、2班に分ける。「よるくる」もそうなのですけれども、全員で乗るとほかの方に迷惑がかかるので2班か3班に分けるのであれば可能なかなと思います。

○宇江田豊彦委員長　　少し整理させてください。いろいろと御意見をくださっていますが、考え方は2つあると思います。JRの活用とバスの活用を一遍に済ませてしまおうと。JRはとりわけ高校生の皆さんが活用される率が高いので、高校生が乗っている電車に乗ろうということで進めていけば、半分だけでも、庄原駅に来る便だけでも乗ってみよう。8人乗ればかなり混雑して問題があるのではないかと御意見もありますが、8人乗って乗れなくなる公共交通ならそれこそ問題があるのではないかと思います。朝、JRで備後西城駅まで行って、備後西城駅から庄原駅まで帰ってきて、そこからバスでつないでいくという案を少し検討します。その方向でよろしいですか。十分な、細部にわたる調査にはなりません、今回はそういうことを議員として体験してみるというところに重きを置いて調査を進めるということで進めたいと思います。よろしいですか。そういうコースをたどりたいと思うので、朝早いのですが、朝6時半過ぎごろには三次駅に集合してもらわなければなりません。それから、本特別委員会には予算が1円もありません。予算がないということは皆さんにお金を手出ししてもらわなければならないということです。議長が特別な配慮をしてくださって予算づけをしてもらえればまた別の話なのですが、それもあまり期待はできないと思うので、応分の負担を委員の皆さんにお願いすることになるかと思えます。それも含めてよろしくお願ひします。それでは三次駅発のJRでスタートする方向で日程を検討します。費用は個人負担でお願いいたします。

○坂本義明副議長　　実際に何人かで、本特別委員会とは別扱いで「よるくる」に乗ってもいいと思う。

○國利知史委員　　本特別委員会ではなくても、飲んだ後で少し乗ってみるのもいいと思います。

○宇江田豊彦委員長　　「よるくる」については、実は多くの皆さんが補助金も何もない中で企業や個人の努力によって営業されているシステムです。議会としてどのように運行についての課題を捉えてくれるのか注目されていると思います。個人的に使うのではなく、できれば本特別委員会の組織的な対応として乗ってみるのがいいのではないかと思います。検討させてください。ただ単に乗るだけではあまり芸がないので、皆さんと一定の交流をする機会をどこかで設けて、それから「よるくる」に乗って帰ると。前田副委員長や谷口委員は「よるくる」に乗って帰るわけにいかないのです。その辺の課題は残りますが、計画してみたいと思います。そういう方向で進めます。日程はいつにしますか。休憩します。

午前9時19分　　休　　憩

午前9時24分　　再　　開

○宇江田豊彦委員長　　会議を再開します。それでは、今皆さんに御議論してもらって決定したことについて確認します。まず、スタートは三次駅で、6時54分発のJRに乗車する。備後西城駅まで行き、備後西城駅から庄原駅にまた帰ってくる。そこから先の日程についてはもう少し調整をして、地域交通を利用した中身にする。それから、その夜にできるだけ「よるくる」に乗って帰るということで考えたいと思います。昼間に体験したことについて一定程度議論を重ねる場を夜に設けて、そういう場を設けた上で「よるくる」を利用することにします。よろしいですね。これは当面の取り組みという

ことで本特別委員会として取り組みを進めていきたいと思ひます。そのほか、皆さんから何かありますか。前田副委員長。

○前田智永副委員長 日程はこれから細部を考えていくところですが、「よるくる」に乗るとなると、皆さんは飲酒をして御自宅に送ってもらふのだと思ひますけれども、途中で車を取りに行く時間を考えたほうがいいのですか。それとも、昼ごろまでで日程を組んで、一旦休憩して再集合するほうがいいですか。

○宇江田豊彦委員長 議長。

○林高正議長 私は高速バスで三次駅まで行こうと思ひます。

○宇江田豊彦委員長 それは皆さんで考えてください。細部まで調整をするのも難しいので、申し訳ないのですがそれぞれ定刻に来てもらうということで、車を取り行くのをどうするのかといったことを考えるとなかなか調整がつかないのでそのようにさせてください。他にありませんか。次回の特別委員会ですが、11月6日に特別委員会を開催して調査を実施します。集まってもらふ日程については調整して決めますのでよろしくお願ひします。よろしいですか。本日の会議はこれで終了いたします。

午前9時28分 散 会

庄原市議会委員会条例第30条の規定により、ここに署名する。

地域生活交通に係る調査特別委員会

委員長